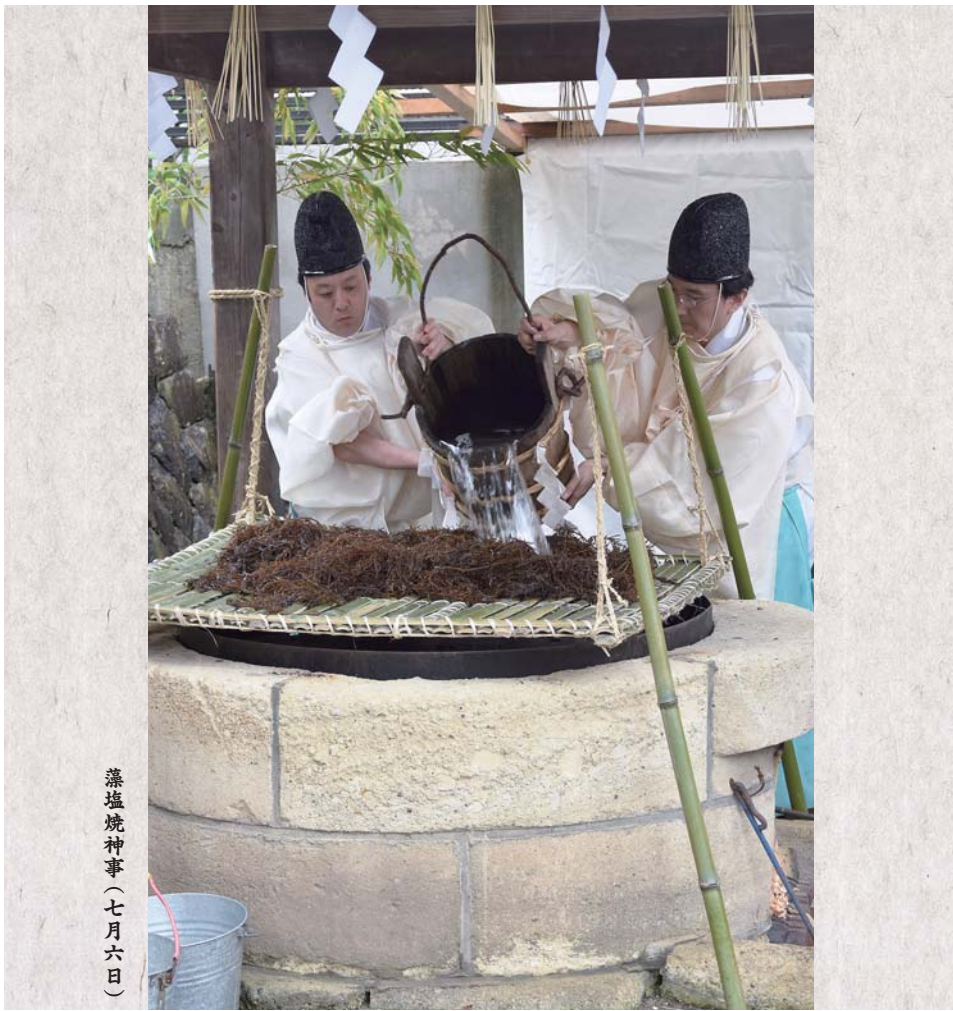


# 鹽竈十福

発行所 〒985-8310 塩竈市一森山一番一号  
 志波彦神社  
 鹽竈神社 社務所  
 電話 〇二二三六七二六一(代)  
 FAX 〇二二三六五五五三〇  
<http://www.shiogamajinja.jp/>



藻塩焼神事(七月六日)



京都市下京区に鹽竈町があることをご存知だろうか。嵯峨天皇の第十二皇子として生まれ、後に左大臣となる「源融」の屋敷があったことに因んだ町名である。融の何が鹽竈と呼ばれる所以なのか。

融は、六條河原の邸内に鹽竈の浦の景色を横して広大な庭園を造り、毎日大阪湾から二十石もの海水を運んで塩を焼き、遙か陸奥の国鹽竈を偲んだ。塩焼く煙が立ち上り、日本最初の海水庭園を持つ融邸は、都人たちにとつての newName となる。かような徹底した風流人でありながらも高位を極めた貴公子、そんな人物だからこそ源氏物語の光源氏のモデルとも言われるのである。融が鹽竈に関心を持ったのは、陸奥出羽按察使に任命されてかららしい。だが、実際に按察使として陸奥出羽まで来たかは不明、任地に行かず遙任として都で執務した例が多くあるからだ。しかし、藻塩を焼く新名所は融没後には荒果て、その様を紀貫之は、「君まさで煙絶えにし鹽竈のうらさみしくも見え渡るかな」と詠んでいる。この歌によって、鹽竈の名は更に有名となり、多くの都人に詠まれることとなる。『国歌大観』等に掲載の鹽竈に関する歌は二百首にも及ぶも、そのほとんどは実際に鹽竈の景観を見て詠まれたものではない。にも関わらず、鹽竈は詠まれ続けた。それは何故か。その答は、屏風絵にあるらしい。その証左として次の一首を紹介する。

屏風の絵に鹽がまのうらかきて侍りけるを 一條院皇后宮古のあまやけふりとなりぬらむ人めもみえぬ鹽がまの浦塩焼く風流人「源融」によって、鹽竈は都人あこがれの地となった。

七月は六日に藻塩焼神事、そして十日、焼き上がった神塩を御供えし、しおがまさまの例祭である。

**鹽竈神社例祭 七月十日**



御出幣式

来る七月十日(月)、鹽竈神社例祭を齎行いたします。古くは陸奥国司が神事をにない、江戸時代には仙台藩主伊達家が大神主として祭祀を司りました。当日は午前十時より齎行され、祭典中に特殊神事「御出幣式」が執り行われます。

御出幣式は、別宮・左宮・右宮各御本殿内に奉安されている御神幣を権宮司以下所役三名が奉戴し、七対の御神宝とともに楼門前まで進み、まず南面し伊勢の神宮に向かい左右左の順に振り奉り、さら



流鏝馬神事

に北面して同様の所作を行います。これは国家の安泰と国民の平和を祈るもので、かつては「御朝参神事」とも称し、筆頭禰宜家のみが相伝する秘事でした。

また例祭奉祝行事として行われる流鏝馬神事は、七月九日(日)午後二時から齎行いたします。

そのほか神賑行事として、市内小学生による書道展が絵馬殿にて開催されます。

**宮城県無形民俗文化財  
藻塩焼神事**  
七月四日・五日・六日

鹽竈神社例祭に先立ち、市内本町に鎮座する末社御釜神社では、御祭神塩土老翁神ゆかりの特殊神事「藻塩焼神事」が齎行されます。

「藻刈神事」七月四日  
七ヶ浜町花洲浜沖に神事船を出し、ホンダワラ(神馬藻)と呼ばれる海藻を採取する神事です。

七月十七日(月・海の日)、  
「やしろと魚のまち」塩竈を挙げての祭典「みなと祭」が齎行されます。

戦後の混乱の中始まったみなと祭は、今年で七十回となります。当日は志波彦神社・鹽竈神社御両社の大神輿が市内を巡幸ののち、御座船「龍鳳丸」「鳳凰丸」に奉安され、日本三景松島湾を舞台に大小百隻からなる供奉船団を従え海上を渡御します。

そのほか前日に開催される

**塩竈みなと祭**  
七月十七日 海の日



海上渡御

花火大会や陸上パレードなど塩竈のまちは華やかに賑わいます。

「水替神事」七月五日  
松島湾釜ヶ淵より満潮時の海水を汲み、古い神釜の水を海に返して入れ替える神事です。

「藻塩焼神事」七月六日  
海水を煮詰めて塩を取り出す神事です。古代の製塩方法の一端を伝える貴重な神事として昭和五十四年に宮城県無形民俗文化財に指定されました。

神事で調製された塩は引続き齎行される御釜神社例祭、十日の鹽竈神社例祭で御神前

**曲木神社例祭**  
八月一日

八月一日(火)、市内新浜町籬島に鎮座する末社・曲木神社の例祭が齎行されます。

籬島は国の名勝「おくのほそ道の風景地」の一つに指定され、日本遺産『政宗が育んだ「伊達」な文化』の構成文化財にもなっています。

前日夕刻には前夜祭が齎行されます。

籬島には毎月一日の月次祭と例祭の日のみ渡ることが出来ます。



藻塩焼神事

にお供えされるほか、当日の参列者にお頒けいたします。

# 氏子崇敬会 春季大祭齋行

五月十四日、氏子崇敬会春季大祭が鹽竈神社左右宮において齋行されました。

当日は雨の中、鈴木雄一會長以下約三百名の会員が参列し、祭典後、委嘱状の交付、永年継続表彰が執り行われました。

今年の記念品は、「一労永逸（いちろうえいいつ）」と墨書された色紙でした。

一度苦労すれば、その後長くその恩恵を得られ、またわづかな苦労で多くの安楽が得られること、物事がよい傾向に向かうことを意味します。

## 新世話人 (敬称略)

東塩釜 (北部)

大世話人 相田 明雄

海岸通一 (南部)

世話人 今野 武雄

平成二十九年年度継続表彰者

◇十年表彰 (敬称略)

貞山通 (東部)

佐藤 良明



永年勤続表彰

## 御神田御田植祭齋行

五月十三日、御神田において御神前にお供えする神饌米の苗を植える御田植祭が齋行されました。当日は雨の中、氏子少年団やボーイスカウトなど総勢二百二十五名が参列しました。

これから四カ月、農耕と殖産の守護神志波彦大神が見守るなか、引続き耕作・管理が行われ秋の収穫を待ちます。

## 織田流煎茶道 献茶式

去る四月二十九日、織田流煎茶道多賀城支部（佐藤南智支部長）が結成四十五周年を迎え、献茶祭が齋行されました。

奥村南裕家元のお点前により、御神前に煎茶が奉納されました。

織田流煎茶道は織田信長の弟の織田有楽斎を茶祖とし、現家元の奥村南裕氏で十六代となります。

有楽斎の茶は、抹茶は「有楽流」、煎茶は「織田流」とし



御田植祭



献茶式

て伝えられ、織田流煎茶道は煎茶各流派の中でも独自の位置を占めています。献茶式は五年に一度齋行さ

れており、当日は祭典後社務所全館において茶会が開催され、門人が集い交流を深めていました。

## 夏越大祓式齋行

六月三十日、祓所において夏越大祓式が齋行されました。大祓式とは、日々の生活の中で身に受けた罪や穢を祓い流し、清浄な心身に戻り生活を営むための神事です。

参列者それぞれが切麻を手に自身を祓い終えた後、志波彦神社前に舗設された茅の輪をくぐり、残り半年の厄災消除を祈念しました。



茅の輪くぐり

敬神婦人講だより

平成二十九年年度総会

四月十七日、社務所大講堂において講員百十四名参加のもと平成二十九年年度総会が開催されました。

前年度講務・決算報告、今年度事業計画・予算の承認がなされました。

議事終了後、「神社百景 志波彦神社鹽竈神社」を鑑賞し懇親会となりました。

大年寺墓参

並びに研修旅行実施

六月二十日、講員らによる大年寺伊達家墓所への墓参が行われました。

当日は当社に縁の深い四代藩主伊達綱村公(背山公)の命日にあたります。

翌二十一日には埼玉県の秩父神社・寶登山神社・三峯神社を参拝しました。

志波彦神社に石柱を奉納

去る六月一日、講員薄井幸子氏が奉納された石柱「名神

講社だより

四月から五月にかけて、各地の鹽竈講社祭が多くの講員参列のもと齋行されました。各講社の永年継続講員に対し表彰がなされましたので、御芳名を紹介いたします。

(敬称略)

仙台千人講大祭

鹽竈桜が満開をむかえた四月十六日、及川勇講長以下六十名が参列して齋行されました。

◇六十年表彰

佐浦 益子



大社志波彦神社」の奉納奉告祭が齋行されました。

薄井氏は永年にわたり講員として活動できたことに感謝し、奉納されました。



「志波彦神社」石柱前での記念撮影

◇五十年表彰

佐浦 康洋・佐浦 健洋

◇四十年表彰

(株)庄司 ・鹿野美江子

◇二十年表彰

橋浦 俊夫・熊谷 慶二

佐浦 以久子・佐浦みどり

大野 眞紀子

◇十年表彰

渡辺 博・今野 博

百々 宏二・松本喜代克

釜石神恩講

四月二十日、菅原勲世話人以下、講員六名の参列のもと齋行されました。

例年「色川講」として参拝

されておりましたが、前代表色川テル子氏の逝去に伴い、講名を「釜石神恩講」と変更しました。

◇四十年表彰

菅原 勲

◇二十年表彰

佐々木 勝正

◇十年表彰

黒木 健二郎

釜石講社祭

花まつりと同日の四月二十三日、津田緋沙子講長以下三十五名が参列し齋行されました。

◇四十年表彰

菊池 信幸

◇二十年表彰

紺野 武司・菊池 緑郎

濱 智也

◇十年表彰

植田 生子・高木 一

土橋 博聰・有住真理子

新潟亀田講社祭

新緑が眩しい五月二十一日、遠路新潟県から熊倉清弘講長以下二十名が参列し齋行されました。

◇三十年表彰

小林 クミ・立川 昭二

◇十年表彰

阿部 英雄

鹽竈神社 石柱奉納奉告祭



昨年十月、鹽竈講社大槌支部倉本支部長の御母堂倉本キエ氏より御芳志の奉納がありました。

この御芳志により『陸奥国一宮鹽竈神社』の石柱を作成東神門下に設置し、去る四月九日に奉納奉告祭を齋行致しました。

当日は倉本支部長ほか六名が参列、祭典後に神納書・記念品が授与され、東神門石柱前にて記念撮影となりました。



「鹽竈神社」石柱前での記念撮影

祝 鹽電講社大槌支部  
創立三十周年

去る五月六日、鹽電講社大槌支部（倉本栄一支部長）が創立三十周年を迎え、奉告祭並びに記念式典が、岩手県の大槌三陸ホテル「はまぎく」において来賓を含め百名参列の下、盛大に挙行されました。

当社より宮司・職員二名が向出し、まず会場のホテルで当社職員奉仕による創立三十周年記念奉告祭を齎行、その後記念式典となりました。

式典では、支部長の挨拶、この佳節にあわせ神社へ「鹽電講社唐門並びに東神門の門



記念式典

部として創立、東日本大震災による苦難にもめげず、篤い信仰心によって結束を固めております。

創立五周年の平成四年に御供え用の雛壇の奉納、平成十四年の創立十五周年には鹽電講社の唐門・東神門の門帳の奉納がありました。

平成二十六年より当地にて春の祈願祭行事が始められ、大槌支部の恒例行事に定着しました。

帳」が奉納され、宮司より感謝状を贈呈、祝辞を申し述べました。その後の祝賀会では、これからの益々の発展を祈念し、参加者一同、和やかに懇親を深めました。

ここに大槌支部の三十年の歩みをご紹介します。

昭和三十年、鹽電講社吉里吉里講として参拝が始まりました。昭和六十年には講社大祭前日に講員が神社に参籠し参列するようになり、現在まで続いております。

昭和六十二年、吉里吉里講から三十年目にあたり大槌支部として創立、東日本

養成所通信

四月七日、桜の蕾が膨らみ始めたなか、神職養成所の入所式が行われ、四名が神職を志し門をくぐりました。

神前にて入所の旨を奉告したのち、大講堂にて式典を挙行。新入生は宣誓文を読み上げ、所長の訓示や来賓の方々からの激励のお言葉を頂戴し、父兄の見守る中、新たな一歩を踏み出しました。

入所式後は、朝の禊、祭式・雅楽の集中講義が実施され、

五月からは祭典奉仕・社頭実習・奉製作業等に取組んでいきます。

○新入生

- 「普通課程Ⅱ類一年」  
金澤 空（岩手県）
- 佐竹 崇史（長野県）
- 寺島 成美（山形県）
- 山崎 尚範（青森県）

また同日付で左記生徒が二年生に進級しました。

○進級生

- 「普通課程Ⅱ類二年」  
山中 里帆（福島県）

巫女 礼儀作法講習、  
神楽舞温習

四月十二日に伊達家伯記念会の仙台藩作法指南役である池田峯公先生を講師にお招きし、来客者の接遇などにおける作法を終日にわたり御指南頂きました。

また五月十八日・十九日、同二十三日・二十四日の四日間、巫女の神楽舞の温習が行われました。

藤波祥子先生（亘理郡八重垣神社宮司）の指導のもと、当社独自の一森の舞・海人の



神楽舞の温習

舞 また浦安の舞、悠久の舞に十一名の巫女らは熱心に取り組みました。



神職養成所入所式

### 参拝記録

三月から五月にかけて当社を正式参拝された方々を左記に御紹介いたします。  
(敬称略)

#### 三月

- 四日 仙合千人講世話人会 六名
- 八日 柏木白光氏以下四名
- 二十七日 愛知県・大井神社総代会 五名

#### 四月

- 九日 平曲一ツ目弁天会 四名
- 二十五日 大崎市・鳴子川渡公民館  
芸術文化鑑賞会事業参加者 三十名

#### 五月

- 十一日 京都府・伏見稲荷大社職員旅行 一班 二十五名
- 十六日 京都府・伏見稲荷大社職員旅行 二班 二十五名
- 十八日 巨理郡・八重垣神社 藤波祥子宮司
- 十九日 山形県・出羽三山神社崇敬会研修旅行 二十五名
- 〃 埼玉県・川口東ロータリークラブ 十五名
- 二十一日 大徳寺昭輝氏以下十七名
- 二十二日 京都府・伏見稲荷大社職員旅行 三班 二十五名
- 二十七日 北上町女川法印神楽保存会 十名

### 神楽舞奉納

五月二十七日、北上町女川法印神楽保存会（今野三千雄会長）により奉納演舞が行われました。女川法印神楽は、江戸時代から伝承される神楽で石巻市の無形民俗文化財に指定されています。

一同正式参拝ののち、左右宮拜殿において奉納された演目は「笹結び」。この演目は、素戔嗚尊が悪鬼を退治するもので、清めの舞ともされています。

剣を手にした勇壮な戦いの場面は、途中拜殿を出て繰り広げられ、御参者らも迫力ある舞に見入っていました。



女川法印神楽

### 東北式内社顕彰会

去る三月二十三日・二十四日の一泊二日の日程で、東北式内社顕彰会第五回巡拝会が実施されました。

参加者は十五名で、今回は小物忌神社・鳥海山大物忌神社を参拝しました。その他、酒田市立資料館・城輪柵・庄内米歴史資料館などを見学しました。

各社では正式参拝後、丁寧な説明を頂き、参加者は出羽



「城輪柵」の見学

### 平家琵琶 奉納演奏

去る四月九日に平曲一ツ目弁天会（荒井今日子代表）による平曲の奉納演奏が行われました。

平曲とは『平家物語』全二百話に声域や速さの異なる曲節を「平家琵琶」の伴奏につけて語る「語りもの音楽」で、南北朝時代に完成した古典芸能の一つであります。平成二十七年より毎年奉納

されており、今年も「老馬」「卒都婆流」「青山沙汰」が演奏されました。

小雨の降りしきる中、境内にかき鳴らされる琵琶の音に、参拝者が足を止め鑑賞していました。



奉納演奏

ご結婚  
おめでとう  
ごさげいいます

三月から五月にかけて、当社にて華燭の典を挙げられた方々を紹介します。

(敬称略)

三月

茨城県 山下 将太  
秋田県 成田 美和子

石巻市 摺澤 大輔  
仙台市 結城 みや

仙台市 木皿 淳  
仙台市 遠藤 美保

仙台市 藤澤 貞治  
刈田郡 駒板 梨香

仙台市 遊佐 利治  
多賀城市 高嶋 涼子

塩竈市 大沼 剛宏  
福島県 シェランガスキー・ひかり

山形県 武田 倫典  
仙台市 石垣 祐子

四月

福井県 岡田 猛  
仙台市 高橋 ちひろ

大阪府 金谷 淳  
大崎市 高嶋 泰子

大崎市 野村 奨  
北海道 園 亜希子

登米市 佐藤 琢也  
登米市 生江 有希子

仙台市 千葉 航平  
仙台市 工藤 詩穂子

本吉郡 西條 広明  
仙台市 大友 えり子

石巻市 土屋 貴義  
石巻市 坂本 麻実

岩手県 阿部 一徳  
タイ タンワッタナスクン・ラダー

山梨県 伊藤 礼  
仙台市 佐藤 絵麻

カナダ スタイーブ・ゴドロ  
仙台市 小野寺 なつき

仙台市 永田 龍之介  
岩手県 菅原 奈菜美

大崎市 井上 孝秀  
大崎市 高橋 紀子

仙台市 茂庭 秀司  
岩手県 橋本 弥生

北海道 玉井 健太  
東松島市 高嶋 香苗

北海道 羽土 仁  
仙台市 平間 理恵

千葉県 長野 武  
埼玉県 土門 絵里子

大崎市 平野 篤  
兵庫県 齋藤 洋子

三重県 中島 保  
山形県 石山 京子

仙台市 成澤 孟  
塩竈市 武山 加奈

黒川郡 吉田 禎  
山形県 茂木 智子

多賀城市 小形 優貴  
仙台市 太田 怜美

遠田郡 須藤 誠弥  
大崎市 富士原 蘭令

埼玉県 植松 翔太郎  
塩竈市 滝井 菜希子

塩竈市 佐藤 翔  
仙台市 池田 里美

(結納式)

五月

気仙沼市 小山 徹也  
気仙沼市 小野寺 聡美

塩竈市 保坂 力  
塩竈市 砂口 絵梨子

仙台市 千葉 佳祐  
黒川郡 佐藤 裕美

多賀城市 五十嵐 康人  
宮城県 相澤 好美

仙台市 岡本 一郎  
仙台市 佐藤 幸代

山形県 大橋 拓馬  
山形県 白井 千絵

福岡県 清田 大介  
東京都 野口 美穂子

多賀城市 藤原 和則  
多賀城市 篠崎 一恵

岩沼市 澤田 正喜  
岐阜県 菱田 聖子

仙台市 真壁 拓也  
青森県 大崎 真子

多賀城市 生出 智洋  
青森県 関口 恵子

塩竈市 千葉 和哉  
大崎市 菅原 沙織

東京都 山戸 竜太郎  
仙台市 川井 ゆり

仙台市 藤原 伸広  
仙台市 石川 さやか

埼玉県 関口 駿輔  
岩手県 鈴木 里枝

塩竈市 丹野 舜斗  
長野県 島立 優香

東松島市 深村 芳則  
石巻市 内海 志歩

宮城県 宮 和史  
福岡県 箴島 純子

ベトナム ファンバン・ナム  
仙台市 伊藤 夏綺

仙台市 早崎 寛  
登米市 鈴木 由美子

山形県 佐藤 良成  
塩竈市 播上 絵里

仙台市 松田 豊  
仙台市 早坂 藍子

福島県 小山 隆  
仙台市 菊地 美保

北海道 三瓶 憲太郎  
多賀城市 千葉 喜世

# 国家安泰 五穀豊穣 家内安全

祭事暦 (七月から九月まで)

毎月

朔 日 祭

曲木神社月次祭

御釜神社月次祭

鹽竈神社月次祭

志波彦神社月次祭

七月

藻 刈 神 事

水 替 神 事

藻 塩 焼 神 事

御釜神社例祭

牛石藤鞭社例祭

流 鍋 馬 神 事

鹽竈神社例祭

みなと祭

八月

曲木神社例祭

九月

志波彦神社遷座記念祭

並びに氏子崇敬会秋季大祭

二十九日

# 安産祈願 海上安全 大漁満足

## 御座船「龍鳳丸」

### チヨロQ製作

昨年製作された御座船「鳳凰丸」チヨロQに続き、塩釜商工会議所により志波彦神社の御神輿を奉安する「龍鳳丸」のチヨロQが製作されました。みなと祭を間近に控えた六月三十日に関係各位が参列し、奉告祭が斎行されました。神社では、チヨロQと身体健康守を併せて千八百円で授与します。

## 門・廻廊修復工事

昨年八月に起工した門および廻廊の修復工事は、門の漆塗装がほぼ完了し、金物などの取り付けを待つ状態です。この後、東西廻廊の漆塗装が



漆が塗り替えられた門

## 文芸欄

句を添へて塩竈さくら愛てにけり  
塩竈桜浦の群青へと散りぬ  
年来の友水郷の花筏  
全霊の塩竈桜子の笑顔  
海風の塩竈桜正門に  
如鋤きの煙一筋海に消ゆ  
淡々と過ぐる生活や聖五月  
白黒の少女の写真風薫る  
足跡を残さぬ蟹の横走り  
ライトアップの塩竈さくら雅なり

佐々木和子  
神野礼モン  
渡辺 智賀  
佐藤 みね  
辻田よしこ  
太田サチコ  
今田須美子  
上田由美子  
大友セツノ  
山田 桃晃

## 博物館だより

行われ、平成三十年三月に完成の予定です。  
皆様には御不便をお掛け致しておりますが、御理解のほど御願ひ申し上げます。

### 府中市愛刀会刀剣鑑賞会

六月七日、東京都府中市愛刀会(田中滋会長) 会員十一名参加のもと、刀剣鑑賞会を開催いたしました。

当日は、仙台藩の刀工による作品を中心とした当社の所蔵刀剣と個人よりの協出品を合わせた計十一口を社務所大講堂に展示。参加者らは、当地の刀工の作風を熱心に学んでいました。



刀剣鑑賞会

## 銅板奉納者芳名

三月より五月にかけて多くの方々より銅板の奉納をいただきました。  
(敬称略)

三月

岩手県 永井 昭子  
ほか一四六名

四月

大阪府 大鳥 寺  
ほか一三三名

五月

香川県 内海 克一  
ほか二〇七名

## 人事異動

新任(五月一日付)

巫女 高橋 美侑  
千田 理加子  
佐々木みづか  
佐藤 千颯  
櫻井 香菜子  
鹿沼 綾乃

## 赤松

新緑の季節も過ぎ、各地で梅雨入りを迎えています。季節の変わり目、体調管理にご注意下さい。社報一七〇号をお届けします。(慶)